



鷲見 悟

11月26日の要望書では何を求めたのか

質問▶ 11月26日の申し入れ(要望書)は何を意図しているのか。

町長▶ 研究施設である500m以深の調査坑道工事への要請だ。

質問▶ 4つの要請項目の具体的な意味は何か。

町長▶ 具体的な中味と言われなくても特別なことはない。

質問▶ 500mまで掘らなければ研究が出来ないということなのか。

町長▶ 当初計画通りに進めてくれと言ったことだ。

質問▶ 原子力機構のもんじゅ点検もれ、Jパークでの放射能ろうえい事故などが起こり、信用失墜という出来事があった。文科省では予算と決算のムダを含めた抜本的改革を打ち出している。来年の9月までに施設の廃止を含めて方針を策定するとしている。このような中で平成10年10月の500m以深までの研究推進を打ち出したことにより、研究期間の延長は避けられない。

いことになると思うが。

町長▶ 若干の変動や進ちょく状況はあるかも知れないが、ほぼ20年程度で出来ると思う。

質問▶ 500m以深まで掘るということは、5〜6年で出来ると思っているのか。

町長▶ 研究しながら掘削を進めていく。第3段階としてやっていくと思う。

質問▶ 三者協定や今までの経過からすると、たとえ平成10年の時はスパイラルで500mまで掘る。しかし工事費や土壌基盤からいっても無理だということになって、平成15年頃は電源三法の予算と工事費が決定し、平成17年には350m以深ということになった。あとは、NUMO(処分団体)の意向によるとされている。それらのことを各年度や五カ年計画の中で認めてきておきながら、今になってから500m以深を掘って欲しいというのはおかしい。

町長▶ 今350mのスカ

フォードで降りていく。それなら結局350mではなく、10mとか15m少し深く掘っている。それと同じで500mちよつきりな所でそれ以上は掘らないと言うことではないと私は思っている。

総務課長▶ 当初の計画通り進めてくれと言ったこと。文科省の機構改革では、施設の廃止を含め今後の方針を検討するとなっている。ここで打ち切られても困るので、しつかりやって欲しいという思いだ。



齊賀 弘孝

Q なぜ今まで選挙を戦ってきたのか!

A 財政的な余裕がない中、町民を主役とした行政へ変革する必要があると思ったからだ。

質問▶ 国から処分場を指名することになったが、文献調査は受けるのか。

町長▶ 私は受けるつもりはない。国から一方的に来るかも知れないが、その時は、議会、町民に知らせなくては思っている。

質問▶ 500mを掘ることにより、経済効果はあるのか。

町長▶ 地元で働いている(原子力機構関連)人の雇用のことについて心配している。40人くらいいると聞いている。生活が出来なくなると困る。

町長▶ 今後の課題とする。

質問▶ 町長に就任してから、体育スポーツの貢献表彰がないのは残念である。

町長▶ 過去に一度、教育委員会から推薦あったが、表彰審議会でも承認とならなかった。

質問▶ それはどういう経過からか。

総務課長▶ 平成16年に中学生が全国大会出場し優秀な

成績だったが、基準が不明確で、義務教育でもあり、更なる期待も踏まえ、当時不承認と記録にある。

質問▶ 改善すべき事項でないか。

町長▶ あやふやにしていることは良くないので、審議会を決めていく方法が一番良いのかと思っている。

質問▶ 4月からの第5次総合計画の進捗は。

総務課長▶ 大変に遅れているが、基本計画原案を取りまとめ、議員皆さんに報告し、策定して参りたい。

副町長▶ 委員長は私であるが、事務作業に少し手間取った。3月には間に合う見込み。ご理解頂きたい。

質問▶ パブリックコメントも、議会にあがってくるのも予定通りか。

副町長▶ その通り年度内に進めていく。

質問▶ 幌延深地層研究計画推進は町商工会、町建設協会との連携はないのか。

町長▶ 今のところ予定はない。

質問▶ 研究期間が長くなるので、三者協定に違反するのではないかと、報道機関は考えているがどう思うか。

町長▶ 当初計画では、研究